

ハンス坊やの帰る家は

— *Hänschen klein* と唱歌「蝶々」をめぐって —

小澤 昭 夫

1. 勤務校で担当するドイツ語初級の授業では、アルファベートと発音の学習を一通り終えたところで、読み方に慣れる練習としてドイツの歌を教材に使うことがある。日本では「蝶々」¹⁾の旋律でお馴染みの *Hänschen klein* もその一つである。

曲も聴かせる関係で、その歌詞は、或るCD付属の小冊子に掲載のものである。その *Hänschen klein* の歌詞とこれに添えられた日本語訳とを読み比べてみた時、ある箇所の訳が意訳とも違って原詩とはかけ離れていることに気がついたのである。

2. 前述のCDとは、往年の名歌手ルチア・ポップ Lucia Popp (1939–1993) の『ドイツの子供の歌』²⁾ である。これにはドイツ語版とは別に日本語版の小冊子が付いている。この小冊子には「ドイツの童謡と子守歌」という解説がまずあり、その後にドイツ語の歌詞とその日本語訳が収められている。解説は「江波戸 昭」、日本語訳は「丹野美穂子、江波戸 昭」とある。

収録曲27のうちの1曲が *Hänschen klein* であり、その歌詞と日本語訳は以下の通りである。このドイツ語の歌詞を、便宜上P稿（＜Lucia Popp）としておく。

Hänschen klein (P稿)

Hänschen klein ging allein
In die weite Welt hinein.
Stock und Hut steht ihm gut,
Ist gar wohlgemut.
Aber Mutter weinet sehr,
Hat ja nun kein Hänschen mehr.
„Wünsch' dir Glück!“ sagt ihr Blick,
„Kehr nur bald zurück!“

Sieben Jahr', trüb und klar,
Hänschen auf der Reise war,
Da besinnt sich das Kind
Eilet heim geschwind.
Doch nun ist's kein Hänschen mehr,
Nein, ein großer Hans ist er.
Braungebrannt Stirn und Hand,
Wird er wohl erkannt?

ハンス坊や (ちょうちょ)

小さなハンスは一人で旅だつ
広い世界に向って。
ステッキと帽子が良く似合う
胸を張り、自信満々
でも母さんは、泣きどうし
だって、ハンスがいなくなるからね。
「幸運を祈るよ」と母さんの目
「じき戻って来るんだよ」

7年、明暗の歳月が
ハンスの旅で過ぎました。
ある日、突然思い出し、
家路を急ぐハンス君
でも、もう家はない
もう大きなハンス君
額も手も陽に焼けた
ハンスに気付く人はいるだろうか。

Eins, zwei, drei geh'n vorbei,
Wissen nicht, wer das wohl sei ;
Schwester spricht : „Welch Gesicht !“
Kennt den Bruder nicht.
Kommt daher die Mutter sein,
Schaut ihm kaum in's Aug' hinein,
Spricht sie schon : „Hans, mein Sohn !
Grüß' dich Gott, mein Sohn !“

一人、二人、三人と
そ知らぬ顔で通り去る。
妹さえも「これは誰？」と
兄さんとは気付かない。
ところが母さんがやって来て
ハンスの目をのぞき込み、すぐさま
言いました「ハンス、我が子よ！」
「お帰り、息子よ！」

(訳：丹野美穂子、江波戸 昭)

問題の箇所は、日本語訳の第2節5行目「でも、もう家はない」である。

日本語訳だけを見ていると、すぐ上では「家路を急ぐハンス君」と言いながら「でも、もう家はない」ことを訝りつつも、読み飛ばしてしまう可能性は大である。

しかし、原詩の方は、“Doch nun ist's kein Hänschen mehr,” である。しかもこれは次行の“Nein, ein großer Hans ist er.”とも関連しているのであって、ここで「家」が出てくるのは不可解と言えよう。

つまりは、小さなハンス (Hänschen) として母親の庇護のもとを離れ世間に出ていった少年が、7年の歳月の後、もはや小さなハンスではなくなり (kein Hänschen mehr)、大人のハンス (ein großer Hans) に成長したという文脈である。

然るに、唐突とも言える「でも、もう家はない」という訳はなぜ生じたのであろうか。

3. インターネットのWebサイト “www.liederprojekt.org” ³⁾ によると、*Hänschen klein* の歌詞は「フランツ・ヴィーデマン (1821–1882) 『子ども心のための種』ドレスデン1877」(Text: Franz Wiedemann (1821–1882), »Samenkörner für Kinderherzen«, Dresden 1877) により、旋律は「民間伝承」で「狩りの歌 »Fahret hin« (1807年) に従う」(Melodie: volkstümlich, nach dem Jagdlied »Fahret hin«, 1807) とされている。

Webサイト上で公開されている *Hänschen klein* の歌詞の中には、この他にも Wiedemann の原作に基づくと称するものがある。たとえば、①「オリジナルテキスト」(Der Originaltext) ②「ヴィーデマンによる詩の伝承版」(Die überlieferte Fassung des Gedichts von Franz Wiedemann) ③「ヴィーデマンによる歌詞付きの民謡」(Volkslied mit Text von Franz Wiedemann (1821–1882)) などである ⁴⁾。

ところが、これらを相互に比較対照してみると何故か一致しないのである。

試みに “liederprojekt.org” の歌詞を左に配置して、上記①②③と前述の P 稿でこれと異同のある箇所を右側に記すと次のようになる。数字は節と行を示し、続いて異文と①～③、(P) の別である。但し、ここでは行末のコンマとピリオドの有無と相違、行頭の大文字と小文字の相違、アポストロフィの有無は省略する (下線は筆者)。

1. Hänschen klein ging allein
in die weite Welt hinein.
Stock und Hut steht ihm gut,
ist gar wohlgenut.
Aber Mutter weinet sehr,
hat ja nun kein Hänschen mehr!
„Wünsch dir Glück!“, sagt ihr Blick,
„kehr nur bald zurück!“

2. Sieben Jahr, trüb und klar,
Hänschen in der Fremde war.
Da besinnt sich das Kind,
eilet heim geschwind.
Doch nun ist's kein Hänschen mehr,
nein, ein großer Hans ist er,
braun gebrannt Stirn und Hand,
wird er wohl erkannt?

3. Eins, zwei, drei gehn vorbei,
wissen nicht, wer das wohl sei.
Schwester spricht: „Welch Gesicht?“
kennt den Bruder nicht.
Kommt daher die Mutter sein,
schaut ihm kaum ins Aug hinein,
ruft sie schon: „Hans, mein Sohn!
Grüß dich Gott, mein Sohn!“

1,1: Hänschen klein geht allein ③

1,3: Stock und Hut stehn ihm gut, ③

1,5: Doch die Mutter weinet sehr, ①;
Aber Mama weinet sehr, ②

2,1: Sieben Jahr trüb und klar ①②

2,2: Hänschen auf der Reise war, (P)

2,4: eilt nach Haus geschwind. ①②③

2,7: Braungebrannt Stirn und Hand, (P)

3,5: Kommt daher sein Mütterlein, ①②;
Doch da kommt sein Mütterlein, ③

3,7: Spricht sie schon: „Hans, mein Sohn! (P)

Liederprojekt版とP稿との大きな違いは次の2カ所である。

すなわち、ハンス坊やは「異郷に (in der Fremde)」いたか「旅をして (auf der Reise)」(第2節2行目) いたかであり、再会するや一目でハンスを認めた母親が「叫ぶ (ruft)」か「言う (spricht)」(第3節7行目) かである。

それにしても、Wiedemannのオリジナルと称したり、原作に依拠しているはずの歌詞が相互に異なっているのは、母語話者にとってはこれらの違いが取るに足りないということなのであろうか。

そもその原作がどうなっているのかは、幸いにも Wiedemannの著書 »Samenkörner für Kinderherzen« で確認することができた。但し、それは1873年刊の第8版と1903年刊の第13版によってである。前出の“Dresden 1877”を初版の刊行年と理解していたので、「1873年刊」しかも「第8版」は驚きであった。また第13版では、書名の下副題が簡略になり、発行元も変わっている(図1～4と参考文献を参照)。

さてその Wiedemann の原作は、第 8 版によると次の通りである。表題もまた *Hänschen klein* ではなく「ハンス坊やと母親」*Hänschen und seine Mutter* である。

この第 8 版と第 13 版を比べてみると、後者では、コンマの削除、綴りの変更、アポストロフィの挿入、セミコロンのコンマへの変更、大文字の小文字へのまたその逆の変更、引用符の挿入などの異同があるが、それらは矢印の右に示した。

これらの違いが一体いつどの版を境にして現れたのかを確認することはできないが、これには Duden の正書法の影響も考えられよう。というのも、第 8 版 (1873 年) と第 13 版 (1903 年) の間にあたる 1880 年には、Konrad Duden の正書法辞典 *Vollständiges Orthographisches Wörterbuch der deutschen Sprache* が出版されているからである。⁵⁾ しかし、ここでは正書法との関係についてまでは立ち入らない。

- | Hänschen und seine Mutter. (第 8 版) | (第 13 版) |
|---|--|
| 1. Hänschen klein, geht allein
In die weite Welt hinein.
Stock und Hut steht ihm gut,
Ist auch wohlgemuth.
Aber Mutter weinet sehr,
Hat ja nun kein Hänschen mehr.
Wünsch dir Glück, sagt ihr Blick,
Komm nur bald zurück ! | → Hänschen klein geht allein

→ wohlgemut.

→ Wünsch' |
| 2. Viele Jahr, trüb und klar,
Hänschen in der Fremde war.
Da besinnt sich das Kind,
Ziehet heim geschwind.
Doch, nun ist's kein Hänschen mehr,
Nein, ein großer Hans ist er ;
Schwarz gebrannt Stirn und Hand,
Wird er wohl erkannt ? | → Viele Jahr', trüb' und klar,

→ Nein, ein großer Hans ist er ,

 |
| 3. Eins, Zwei, Drei gehn vorbei,
Wissen nicht, wer das wohl sei,
Schwester spricht : Welch' Gesicht !
Kennt den Bruder nicht.
Kommt daher die Mutter sein,
Schaut ihm kaum ins Aug hinein,
Ruft sie schon : Hans ! Mein Sohn !
Grüß dich Gott, mein Sohn ! | → Eins, zwei, drei

→ ins Aug' hinein,
→ „ Hans ! Mein Sohn !
→ Grüß' Dich Gott, mein Sohn ! “ |

小論では、便宜上これを W 稿 (< Franz Wiedemann) と呼ぶことにする。

このW稿と、既に見たliederprojekt.orgの歌詞を対照してみると、以下のような違いがある。

W 稿 (第 8 版または第13版)	(liederprojekt.org)
1,1: Hänschen klein geht allein	Hänschen klein ging allein
1,4: Ist auch wohlgenut.	Ist gar wohlgenut.
1,8: Komm nur bald zurück !	Kehr nur bald zurück !
2,1: Viele Jahr', trüb' und klar,	Sieben Jahr, trüb und klar,
2,4: Ziehet heim geschwind.	Eilet heim geschwind.
2,7: Schwarz gebrannt Stirn und Hand,	braun gebrannt Stirn und Hand,

すなわち、1,1は現在形の geht が本来の姿である。

1,2は原作では Ist auch wohlgenut. である。

1,8と2,4に現れる動詞は、W 稿ではそれぞれ Komm (…zurück) と Ziehet である。

2,1では、Hans が異郷にいたのは Viele Jahr' 「長年」 である。

2,7では、額と手の日焼けの具合が braun 「褐色」 よりも schwarz 「真っ黒」 である。

ここで特に注目したいのは、Viele Jahr' と Sieben Jahr の相違である。

ヴィーデマン以後のテキストの多くでは、ハンスが異郷で過ごした期間が、いわば漠然とした「長年」から具体的な「7年」に変更されたことになる。

歌詞の第1節では、母親は別れが辛くて悲しみはするけれども、ハンスを世の中に出してやり、彼の幸運を祈るのであった。Claudia Nicolaiによれば、「これは3年と1日続いた遍歴という当時の慣習どおり」(Das entspricht der damaligen Gepflogenheit der Wanderschaft, die drei Jahre und einen Tag dauerte.)⁶⁾ とのことである。しかも7年ともなれば、その2倍以上にあたる。この変更によって、一方では、ハンスの遍歴と不在の期間の長さが際立ち、他方では、それでもなお一目でわが子を認める母親の愛情の強さが浮き彫りになったのではあるまいか。

また、数字として7が選ばれたのは必然でもあろう。というのも、母音の長短と強弱を考えるならば、viele [フィーレ] に対応するような数詞は、sieben [ズィーベン] 以外には見あたらないからである。

4. Nicolaiによると、*Hänschen klein* は「最も良く知られている子どもの歌の一つ」(eines der bekanntesten Kinderlieder)⁷⁾ である。実際、Kinderliederbox.deが掲げる「子どもの歌トップ・テン」(Top Ten Kinderlieder) では、第二位を占めている⁸⁾。

そのNicolaiが、現在知れ渡っている歌詞 - 「たとえ時には二三の語が変更されることはあっても」(auch wenn gelegentlich einzelne Wörter abgeändert werden) - として掲げているのは以下の1節だけのものである⁹⁾。同じページにはまた楽譜も出ているが、楽譜に並行して記された歌詞でこれと異同のある箇所を右側に示した。

Hänschen klein ging allein
in die weite Welt hinein.
Stock und Hut stehn ihm gut,

wandert wohlgenut.

→ er ist wohlgenut.

Doch die Mutter weinet sehr,

hat ja nun kein Hänschen mehr.

Da besinnt sich das Kind,

läuft nach Haus geschwind.

これをX稿と呼ぶことにする。

「二三の語が変更」されているという点では、手元にある二冊の歌集 (a) *Das große Hausbuch der Volkslieder* と (b) *Deutsche Lieder. Texte und Melodien* が掲載しているテキストもまたこのX稿のバリエーションである¹⁰⁾。

このX稿が、P稿やW稿の第1節と大きく異なるのは最後の2行である。

P稿では

„Wünsch' dir Glück!“ sagt ihr Blick, / „Kehr nur bald zurück!“

「幸運を祈るよ」と母さんの目 / 「じき戻って来るんだよ」(丹野・江波戸訳)

であった。

X稿では、この2行がP稿の第2節3～4行目とよく似た語句に替わっていて、

Da besinnt sich das Kind, / läuft nach Haus geschwind.

「そこで子どもは考えて、急いで家へ駆け戻る」(拙訳)

である。この違いは大きいと言わねばならない。

P(W)稿のHänschenは、続く第2節、第3節から明らかなように、Hansつまりは一人前の男となって母親のもとに戻ってくるのである。

一方、X稿のHänschenは、母親のもとに留まる限り、Hansになる機会を得られないのではあるまいか。果してこれがハンス坊やの将来にとって幸福なことなのか疑わしい。有名な格言もあるではないか。

Was Hänschen nicht lernt, lernt Hans nimmermehr.

「少年ハンスが学ばぬことを、大人のハンスは決して学ばない」

なお、上記のX稿は、Nicolaiによると、Otto Frömmel (1873–1940) による自由な改作から生まれたもののことである。¹¹⁾

X稿、W稿との関連で奇妙に思われるのは、ReclamのKinderlieder¹²⁾ が示している次のような歌詞である。

1. Hänschen klein ging allein
in die weite Welt hinein.
Stock und Hut steht ihm gut,
ist gar wohlgenut.
Aber Mutter weinet sehr,
hat ja nun kein Hänschen mehr.
Da besinn sich das Kind,
läuft nach Haus geschwind.

2. Sieben Jahr, trüb und klar,
Hänschen in der Fremde war.
Da besinnt sich das Kind,
eilet heim geschwind.
Doch nun ist's kein Hänschen mehr,
nein, ein großer Hans ist er,
schwarz gebrannt Stirn und Hand,
wird er wohl erkannt ?

3. Eins, zwei, drei geh'n vorbei,
wissen nicht, wer das wohl sei.
Schwester spricht : »Welch Gesicht«,
kennt den Bruder nicht.
Kommt daher die Mutter sein,
schaut ihm kaum ins Aug' hinein,
spricht sie schon : »Hans, Mein Sohn,
grüß dich Gott, mein Sohn !«

上述のように*Hänschen klein*の現在知れ渡っている歌詞は1節だけのX稿である。ところが、このReclam版の歌詞は3節からなり、第1節はX稿のバリエント(1,3: steht; 1,4: ist gar wohlgenut; 1,5: Aber Mutter)であり、第2節はW稿のバリエント(2,1: Sieben Jahr; 2,4: eilet)、第3節はP稿と同じなのである。

すでに見たように、X稿のHänschenは「急いで家に駆け戻る」のであり、母の庇護のもとに留まるのである。そのX稿と、旅の7年を経て母親のもとへ帰るHansを内容とするP(W)稿の第2節、第3節とを結びつけるのはどだい無理というものであろう。

また一風変わっているものとして、ディークマン(Anne Diekmann)編の*Das große Liederbuch*¹³⁾が掲載するHänschen kleinも挙げておきたい。

これは、楽譜の上に記された表題からして“Hänschen klein / Alles neu macht der Mai”であり、第1節はX稿のバリエント、第2節は“Alles neu macht der Mai”「五月はすべてを新しくする」で始まる全く別種の歌詞である。

すなわち第1節の末尾が、X稿の

Da besinnt sich das Kind, / läuft nach Haus geschwind.

「そこで子どもは考えて、急いで家へ駆け戻る」に対して、

Hänschen klein geht allein in die Welt hinein.

「ハンス坊やは一人で世間へ出て行く」であり、これは“Welt”の前の形容詞“weite”の有無の違いだけで、冒頭とほぼ同じ文である。旅立ちが強調されているということであろうか。少なくとも、母親の悲しみなぞ一顧だにしないかのようなのである。

第2節の歌詞は以下のとおりで、「H. A. フォン・カンフ(1818年)」(2. Str.: H. A. von Kamp(1818))によると記されている。

Alles neu macht der Mai,
macht die Seele frisch und frei.
Laßt das Haus, kommt hinaus,
windet einen Strauß !
Rings erglänzet Sonnenschein,
duftend pranget Flur und Hain,
Vogelsang, Hörnerklang
tönt den Wald entlang.

五月はすべてを新たにし、
心を伸び伸びと元気にさせる。
家から外へ出て、
花束を作りたまえ。
まわりには日光がきらめき、
野や林は日に映えて緑が薫り、
鳥のうた、角笛の音が
森から響いてくる。(拙訳)

ルチア・ポップが歌う歌詞（P稿）を始めとして幾つかの歌詞を見てきたところだが、結局のところ *Hänschen klein* は、Dirk Kaesler のことばを借りるならば、「メロディーはいつも同じままだが、歌詞は Wiedemann 稿と Frömmel 稿の間でさまざまに異なっている」。

Die Melodie bleibt immer die gleiche, aber die Texte variieren vielfältig zwischen der Wiedemann- und Frömmel-Version.¹⁴⁾

5. 唱歌「蝶々」についても触れておかねばならない。

「蝶々」はその原曲が「スペイン民謡」と言われてきた。筆者も、授業で *Hänschen klein* を紹介するときには、そのように説明していた。何しろ『日本唱歌集』（岩波文庫）と『日本の唱歌（上）明治篇』（講談社文庫）にはそれぞれ次のように記されているのである。

この原曲はスペインの民謡で、アメリカの唱歌集にも古くから載せられてあった。歌詞は明治七年愛知県師範学校長伊沢修二が同校教員野村秋足に作らせて小学校で歌わせ、のち『小学唱歌集』編集のとき第二章を新作。（『日本唱歌集』18頁）

この曲は、スペインの民謡で、はじめは「ボートの歌」(Lightly row! Lightly row!) として日本に入って来たという。楽しく明るい感じのこの曲は世界各国で喜ばれ、いろいろな詞を配して歌われており、ドイツでは「五月はすべて新しく」(Alles neu macht der Mai) が有名である。（『日本の唱歌（上）明治篇』32頁）

しかしこの「スペイン民謡」説は否定されている。

2015年2月に、櫻井／ゴチェフスキ／安田による『仰げば尊し—幻の原曲発見と《小学唱歌集》全軌跡』¹⁵⁾ が出版された。副題が示しているように、それまでは不明であった「仰げば尊し」の原曲発見に至る経緯から始まり、『小学唱歌集』の成り立ちとその歴史的意味を徹底的に解明する試みである。櫻井らは、その過程で『小学唱歌集』（初編～第三編）所収の「第一 かをれ」から「第九十一 招魂祭」まで全91曲の原曲を探し当て、巻末に「歌の原曲および伝承あるいは伝播の過程」（360頁）をリストで示している。労作である。

すこし長くなるが、同書から「蝶々」に関する記述の一部を引用する。

第十七 蝶々

作曲者：ドイツ伝承曲

注：「スペイン曲」説はローエル・メーソンの歌集（節点1など）から生じた。伊澤修二が『唱歌略説』で「楽譜ハ其出処ヲ詳ニセザレドモ西班牙〔スペイン〕国ヨリ伝来シテ諸邦ニ行コナハレタルモノナルベシトイヘリ」と述べたので日本のほとんどの唱歌集・資料集で採用されてきたが、その証拠はない。L.W.メーソン編の歌集に「スペイン曲」とは書かれていないし、ドイツの楽譜・資料で「スペイン曲」と書かれたものは見当たらない。伊澤の情報源は不明であるが、J. P. McCaskey, ed., *Franklin Square Song Collection*, [no.1] (New York: Harper & Brothers, 1881), p.24 かもしれない。遠藤宏は「原曲はスペインである。独逸でも二、三の歌詞が附され、民謡になり切つてゐる。「五月はすべて新しく」 Alles neu macht der Mai の歌詞で有名である。」（『明治音楽史考』p.209）として、スペイン曲説とドイツ版の存在を

つなぎ合わせた。遠藤以前には小林愛雄編『世界音楽全集 第10巻（世界童謡曲集）』（春秋社、1930、p.101）に収録の“Lightly Row”（軽く漕げ）では“German Folk Song”、また井上武士『国民学校芸能科音楽精義』（教育科学社、1940、p.109）も「ドイツ民謡」というように正しい記述もあったが、遠藤以降は裏付けのないまま「スペイン民謡」説が日本では定着した（中略）。なお、スペイン語の“Pequeño Juanito”〔歌詞：Pequeño Juanito / Se fue solo / Por el vasto mundo〕もあるが“Hänschen klein”に基づく翻案歌詞。（353頁）

上記の引用中「中略」とした箇所は、まさに先に引用した『日本唱歌集』と『日本の唱歌（上）』、及び当該ページへの言及である。

引用中に現れる「伊澤修二」と「L.W.メーソン」についても補足しておこう。

伊澤修二（いさわ・しゅうじ）（1851-1917）は、「明治教育界の傑物で、体育と音楽を日本に持ち込んだ人物としてとくに有名」¹⁶⁾である。「愛知県師範学校長」の後、明治八年に文部省からアメリカに派遣され、ボストンの地でL.M.メーソンから音楽と音楽教育を学んでいる。帰国後、東京師範学校長、音楽取調掛長を務め、『小学唱歌集』の編集に携わった。

L.M.メーソン（Luther Whiting Mason 1818-1896）はアメリカの音楽教育家である。伊澤修二が留学中に師事したのが縁で、伊澤の帰国後、1880年に文部省音楽取調掛のお雇い教師に招聘され、西洋音楽の移入を指導した。『小学唱歌集（初編）』の編集にも関わり、1882年に日本を離れた。本人は滞在の延長を望んだが、希望は叶わなかった。これ以後、「メーソン」はこのL.W.メーソンを指している。¹⁷⁾

唱歌「蝶々」とHänschen kleinの関係にも触れておこう。

『仰げば尊し』によれば、「蝶々」の導入経路は「Fahret hin」→（“Alles neu macht der Mai”）→“Lightly Row”→「蝶々」と推定されており、「Hänschen klein」は“Lightly Row”よりも後に作られたのでこの系譜には関与していない」（353頁）。

同書からの孫引きになるが、メーソンの死を悼んで伊澤が記した「メーソン氏を弔う」の中には、ボストンでメーソンに師事した折のことに触れ「ド、レ、ミ、ファに代うるに、ヒ、フ、ミ、ヨを以てしライトリーロウ、ライトリーロウに代うるにチョーチョ、チョーチョを以てするなど今日、我国の学校唱歌発達の仁子ともいふべきもの」はこの折に成立していたと述べているくだりがある（160頁）。

安田寛によれば、「蝶々」はもともとわらべ歌として全国的に歌われていたもので、多くの歌詞が採集されているとのことである。「蝶々」の歌詞の成立事情について、安田は次のように記している。

伊沢から、愛知のわらべ歌を採集するようにと命じられた、師範学校教員であった国学者の野村秋足は、「蝶々の童歌を採り、その下半部、すなわち『葉の葉にあいたら』の下を代えて今日ある如きもの」とした（後略）（『唱歌』という奇跡』47頁）

伊澤による前記「メーソン氏を弔う」の中のくだりは、まさに「メーソンが示した楽譜にたまたま日本の詞があてはまったという、考えてみれば実にあっけないほどの唱歌の誕生」の瞬間を記しているわけだが、それはまた「江戸時代から続いてきたわらべ歌『蝶々』が、西洋の旋律による『蝶々』に変わった瞬間でもあった」のである。（『唱歌』という奇跡』51頁）

櫻井らが、『小学唱歌集』にある唱歌の原曲、元歌、系譜を分析したところによると、「メーソンの単著の唱歌集に系譜がたどれるもの」は35曲あり、「その内ホームンの唱歌集に系譜がたどれるもの」は17曲で、この17曲には「蝶々」も含まれている。これらのことから「『小学唱歌集』に最も大きな影響を与えているのは、メーソンの唱歌集とその種本であったホームンの唱歌集と他のドイツの唱歌集である」と、『仰げば尊し』は結論づけている（222-224頁）。

「メーソンの唱歌集」には、「ホームンの唱歌集」¹⁸⁾ という種本があったわけである。

なお付言すれば、『仰げば尊し』では「アメリカとドイツに関しても、公教育の歌唱教材として使われた歌を「唱歌」と便宜的に呼ぶ」ことになっている（221頁）。

Hänschen klein が、「狩りの歌」*Fahret hin* (1807) のメロディーで歌われることはすでに見てきたところであるが、ドイツ語版 Wikipedia の記述では、メロディーはこれよりもさらに古く、18世紀の初め以前に遡る可能性があると言及されている。Ludwig Erk と Franz Magnus Böhme が、次のように伝えているとのことなのである。

「メロディーは『フランスに由来するらしい。多くの狩猟の風習もフランスから入ってきたので、それも有り得ないことではなかろう』」

die Melodie „soll franz[ösichen] Ursprungs sein, was nicht unmöglich wäre, da auch viele Jagdgebräuche aus Frankreich kamen“.¹⁹⁾

だが、これ以上の調査はまた別の機会に譲り、ここでは「スペイン民謡」説には根拠がないことを確かめて良しとしよう。

6. ところでルチア・ポップのCD『ドイツの子供の歌』の解説「ドイツの童謡と子守歌」には、次のような箇所がある。

日本では「ちょうちょ」の名で親しまれている「ハンス坊や」(19) も可愛い子供の歌である。“ハンス坊やが広い世界へ出かけていった、杖と帽子で勇ましく、母さんが淋しがって泣いたら、坊やはしばらく考えて、お家へ向かってまっしぐら。”

(引用者注：19はCDの収録番号)

しかし、この解説文に記された内容は、ルチア・ポップが歌うところのP稿ではなく、このCDには収録されていないX稿のものに他ならない。

P稿の訳者の一人でもある人が、本来はP稿について解説すべきところを何故かX稿について解説しているわけである。

さて問題の「でも、もう家はない」という訳である。

すでに2章でも述べたように、文脈からしても、また原詩の“Doch nun ist's kein Hänschen mehr,” からも、この訳が生まれるとは考えにくい。

そこで大胆な推測である。kein Hänschen を kein Häuschen と取り違えた可能性である。

事実、筆者も、今回 *Das große Hausbuch der Volkslieder* を資料の一つとして使用するにあたり、Hausbuch (家庭の常備書) を Handbuch (ハンドブック) と勘違いするところであった。

また筆者には、以前に書いた論文の中で引用文中の oder を und に書き間違えたという苦い経験もある。これは、或る辞書の記述をカードに書き写した時のミスが原因である。校正の際

に、そのカードと照合するだけで満足せず、引用元の辞書に直接あたって確認すれば防げたはずのものであった。しかもこの論文は、別の或る辞書の記述内容を問題視するものであっただけに、痛恨事であった。

推測するに、名前の Hans に「縮小の後つづり」-chen が付いた Hänschen と、Haus「家」に -chen が付いた Häuschen「小さな家」とを混同したのではあるまいか。何しろ小文字の「n」は、天地を逆にすると「u」である。

あるいはまた、すでに見てきたように W 稿にも X 稿にも幾つものバリエントが存在することを考えると、実際に Hänschen ではなく Häuschen と書かれたものがあつたのであろうか。しかし、その場合でも、文脈上の不合理を考えるなら、翻訳の底本とした版とは別の版で確認する方法もあつたと思われる。

いずれにしろ、自戒も込めて言うのだが、歌詞の翻訳にしても解説にしても、もう少し慎重さが必要だったのである。

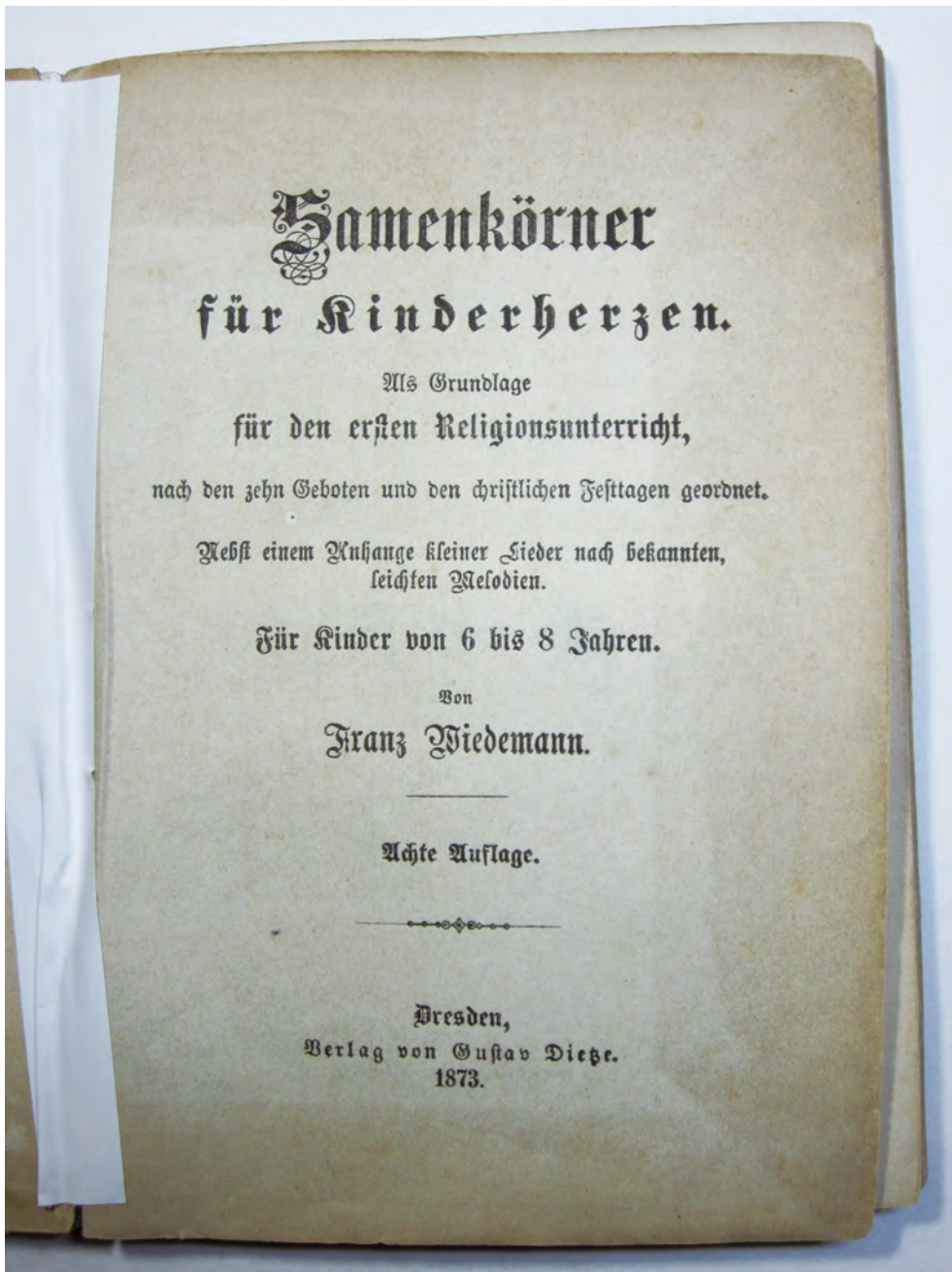


図1 第8版タイトルページ

ハンス坊やの帰る家は
-Hänschen kleinと唱歌「蝶々」をめぐって-



図2 第13版タイトルページ

3. Darin noch meine Wiege steht,
Darin lern ich mein erst Gebet;
Darin fand Spiel und Lust stets Raum,
Darin träumt ich den ersten Traum.
4. Drum tausch ich für das schönste Schloß,
Wärs felsenfest und riesengroß,
Mein liebes Hüttlein doch nicht aus,
Denn 's giebt ja nur ein Vaterhaus.

Mel: So leb' denn wohl, du zc.

Deutsche Volkslieder. Zwickau. No. 133.

22. Hänschen und seine Mutter.

1. Hänschen klein, geht allein
In die weite Welt hinein.
Stoß und Hut steht ihm gut,
Ist auch wohlgemuth.
Aber Mutter weinet sehr,
Hat ja nun kein Hänschen mehr.
Wünsch dir Glück, sagt ihr Blick,
Komm nur bald zurück!
2. Viele Jahr, trüb und klar,
Hänschen in der Fremde war.
Da besinnt sich das Kind,
Zieheth heim geschwind.
Doch, nun ist's kein Hänschen mehr,
Nein, ein großer Hans ist er;
Schwarz gebrannt Stirn und Hand,
Wird er wohl erkannt?
3. Eins, Zwei, Drei gehn vorbei,
Wissen nicht, wer das wohl sei,
Schwester spricht: Welch' Gesicht!
Kennt den Bruder nicht.
Kommt daher die Mutter sein,
Schaut ihm kaum ins Aug hinein,
Ruft sie schon: Hans! Mein Sohn!
Grüß dich Gott, mein Sohn!

Mel.: Bahret hin zc.

図3 第8版137ページ

3. Darin noch meine Wiege steht,
Darin lernt' ich mein erst' Gebet;
Darin fand Spiel und Lust stets Raum,
Darin träumt' ich den ersten Traum.
4. Drum tausch' ich für das schönste Schloß,
Wär's felsenfest und riesengroß,
Mein liebes Hüttlein doch nicht aus,
Denn 's giebt ja nur ein Vaterhaus.

Mel.: So leb' denn wohl, du zc.

Deutsche Volkslieder. Zwickau. Nr. 133.

22. Hänschen und seine Mutter.

1. Hänschen klein geht allein
In die weite Welt hinein.
Stoß und Hut steht ihm gut,
Ist auch wohlgemut.
Aber Mutter weinet sehr,
Hat ja nun kein Hänschen mehr.
Wünsch' dir Glück, sagt ihr Blick,
Komm nur bald zurück!
2. Viele Jahr', trüb' und klar,
Hänschen in der Fremde war.
Da besinnt sich das Kind,
Ziehet heim geschwind.
Doch, nun ist's kein Hänschen mehr,
Nein, ein großer Hans ist er,
Schwarz gebrannt Stirn und Hand,
Wird er wohl erkannt?
3. Eins, zwei, drei gehn vorbei,
Wissen nicht, wer das wohl sei,
Schwester spricht: Welch' Gesicht!
Kennt den Bruder nicht.
Kommt daher die Mutter sein,
Schaut ihm kaum ins Aug' hinein,
Ruft sie schon: „Hans! Mein Sohn!
Grüß' Dich Gott, mein Sohn!“

Mel.: Fahret hin zc.

注

- 1) 「蝶々」の歌詞は『日本唱歌集』(岩波文庫)によると次の通りである(但し、同書では縦書き)。作詞は、第1節が野村秋足、第2節が稲垣千穎である。

なお、「さかゆる御代に」の箇所は戦後に「花から花へ」と改められている。

- 一 ちょうちょう ちょうちょう。
 葉の葉にとまれ。
 なのはにあいたら、桜にとまれ。
 さくらの花の、さかゆる御代に、
 とまれよ あそべ、あそべよ とまれ。
- 二 おきよ おきよ。ねぐらのすずめ。
 朝日のひかりの、さしこぬさきに。
 ねぐらをいでて、こずえにとまり、
 あそべよ すずめ、うたえよ すずめ。

——『小学唱歌集(初)』明14・11

末尾の記載からして『小学唱歌集初編』の出版を「明治14年11月」と理解するのは自然であるが、その出版を「明治十五年」と記す資料が幾つかあり一たとえば山住正己『唱歌教育成立過程の研究』(79頁、参考文献を参照)一、不審に思っていたところ、次のような記述に出会い疑問は氷解した。

「音楽取調掛が、明治十五年(奥付は明治十四年)に出版した最初の唱歌集『小学唱歌集初編』に」(安田『「唱歌」という奇跡』94頁、参考文献を参照)

奥付は「明治十四年」でも、出版は「明治十五年」という訳である。

- 2) Lucia Popp : Die schönsten deutschen Kinder- und Wiegenlieder.

ORFEO C 078 831 B, 1983.

輸入・発売元は「日本フォノグラム株式会社」で、1987年の発売である。

Amazon.co.jpとdiskunion.netの情報によると、ルチア・ポップのCD『ドイツの子供の歌と子守歌』が2003年にキングレコードから発売されている。イメージ画像で見る限り、CDジャケットのデザインとドイツ語タイトルは『ドイツの子供の歌』と同じで、曲目リストを比べると収録曲も同じである。こちらは未見である。

- 3) <http://www.liederprojekt.org/lie303000-Haenschen-klein-ging-allein.html> (参照2016-05-06)

- 4) ①②③は、それぞれ以下のWebページに掲載のものである。

① <http://www.volksliedsammlung.de/haensche.html> (参照2016-05-09)

② http://www.lieder-archiv.de/haenschen_klein-notenblatt_300727.html に掲載の Claudia Nicolai による2016年4月22日付の解説文 (参照2016-05-06)。

③ http://www.kinderliederbox.de/liederseiten/hanschen_klein/hanschen-klein.html (参照2016-05-06)

- 5) 同書の序文、凡例と本文の一部などが、Webサイト:Wikimedia Commonsで公開されている。

https://commons.wikimedia.org/wiki/Duden_-_Vollst%C3%A4ndiges_Orthographisches_W%C3%B6rterbuch_der_deutschen_Sprache?uselang=de

- 6) Claudia Nicolai、注4)の②のWebページ。

- 7) Nicolai, 同上 Web ページ。
8) Kinderliederbox.de - Bekannte deutsche Kinderlieder : Texte, Noten und Akkorde
(<http://www.kinderliederbox.de>) (参照2016-10-28) のスタートページにこの「トップ・テン」
が出ている。他の9曲を第一位から順に記すと次のとおりである。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. Alle meine Entchen | |
| 3. Bruder Jakob | 4. Alle Vögel sind schon da |
| 5. Summ, summ, summ | 6. Der Kuckuck und der Esel |
| 7. Der Mond ist aufgegangen | 8. Oh du lieber Augustin |
| 9. Kommt ein Vogel geflogen | 10. Schlaf, Kindlein schlaf |

- 9) Nicolai, 前掲 Web ページ。
10) 両書については参考文献を参照。これら2書の間でも歌詞に相違が認められる。
それぞれを (a), (b) としてX稿と異なる箇所とその歌詞を以下に記す。

- 4行目: ist gar wohlgenut. (a)
5行目: Aber Mutter weinet sehr, (a) ;
Doch die Mutter weint so sehr, (b)
6行目: hat nun gar kein Hänschen mehr. (a) ;
hat ja gar kein Hänschen mehr. (b)

- 11) Nicolai, 前掲ホームページ。Nicolaiは参照先として以下を挙げている。

Otto Frömmel: Kinder-Reime. Lieder und Spiele. Zweites Heft. Verlag von Eduard
Avenarius, Leipzig, 1900, S. 62 f.

そこには次のように書かれているとのことである。ただし、第2節の終りから数えて3行目
については、“Volkslieder-Songarchiv.de” に掲載の歌詞—http://www.volkslieder-songarchiv.de/text_akkorde.php?lied=haenschen_klein (参照2016-11-19)—との照合により、
“das Hänschen”に改めてある。Nicolaiの記す“dss Hänschen”は単なるタイプミスであろう。
なお、参考までに拙訳を添える。

Hänschen klein zieht allein
In die weite Welt hinein,
Stock und Hut kleidet gut,
Wandert wohlgenut,
Aber Mama weinet sehr,
Hat nun kein klein Hänschen mehr.
Da besinnt sich das Kind,
Kehrt zurück geschwind.

ハンス坊やが一人で出て行く
広い世界へと。
杖と帽子がお似合いで、
上機嫌で歩き回る。
でも母さんは泣くばかり、
ハンス坊やがもういないから。
すると子どもは考えて
急いで家へ逆戻り。

Lieb' Mama, ich bin da
Sagt das Hänschen, hopsasa
Glaub' es mir, bleibe hier,
Geh' nicht mehr von dir.
Da freut sich die Mama sehr,

母さん、ただいま。
ハンス坊やが言うことには、
僕はここにいるよ
母さんからもう離れるもんか。
そこで母さんは大喜び、

Und das Hänschen noch viel mehr;	ハンス坊やはそれ以上
Denn es ist, wie ihr wißt,	だって、みんな知ってるように、
Gar so schön bei ihr.	母さんのそばがいいからさ。(拙訳)

- 12) Reclam Kinderlieder. Texte und Melodien. Stuttgart, 2009. S.66-67.
- 13) Das große Liederbuch. 204 deutsche Volks- und Kinderlieder, gesammelt von Anne Diekmann, unter Mitwirkung von Willi Gohl, mit 156 bunten Bildern von Tomi Ungerer. Zürich (Diogenes), 1975. S.51.
- 14) Dirk Kaesler: Hänschen klein. Vom Weggehen und Wiederkommen, vom Bleiben und vom Hin-und-Her (http://literaturkritik.de/public/rezension.php?rez_id=15815) (参照2016-06-10)
- 15) 櫻井雅人、ヘルマン・ゴチェフスキ、安田寛：『仰げば尊し—幻の原曲発見と《小学唱歌集》全軌跡』東京堂出版、2015年。以後は『仰げば尊し』と略記し、その都度頁数を示す。
- 16) 安田寛：『「唱歌」という奇跡 十二の物語—讃美歌と近代化の間で』文春新書346、2003年、45頁。以後は『「唱歌」という奇跡』と略記し、その都度頁数を示す。
- 17) メーソンの生年を、内外の辞書・事典によっては1828年とするものもある。
Webサイト“Find A Grave”に掲載されているメーソンの履歴によると、生年は1818年4月3日、没年は1896年7月14日である。ここにはメーソンの墓の画像が2枚（墓全体と墓誌）あり、墓誌に刻まれた生年1818が確認できる。ただし、月日は何故か4月2日である（<http://findagrave.com/cgi-bin/fg.cgi?page=gr&GRid=13108392>）（参照2016-10-18）。
また、メーソンが日本に到着した日付は「横浜の英字新聞に載っている乗客名簿から正確に」分かっており、「それは一八八〇（明治十三）年三月二日のことだった。メーソンはあと一カ月で六十二歳になろうとしていた。」という安田の記述（『唱歌と十字架』31頁、参考文献を参照）とも、1818年ならば符合する。
- 18) 『仰げば尊し』はホーマンの著作として以下の3点を記している（191頁）。
 - ① Christian Heinrich Hohmann, *Praktischer Lehrgang für den Gesang-Unterricht in Volksschulen*, vol. 1 (Nörtlingen: C.H. Beck, [1850], 1852)
 - ② Christian Heinrich Hohmann, *Praktischer Lehrgang für den Gesang-Unterricht in Volksschulen*, vol. 2 (Nörtlingen: C.H. Beck, 1852)
 - ③ Christian Heinrich Hohmann, *Praktischer Lehrgang für den Gesang-Unterricht in Volksschulen nach pädagogischen Grundsätzen bearbeitet*, vol. 2 (Nörtlingen: C.H. Beck, 1858)
 「蝶々」の曲に関しては、“Mailed” [歌詞：Alles neu macht der Mai] が上記の① Christian Heinrich Hohmann, *Praktischer Lehrgang für den Gesang-Unterricht in Volksschulen*, vol. 1 (Nörtlingen: C.H. Beck, [1850], 1852), p. 6. にあり、「ト長調・2/4拍子・単旋律で、L.W. メーソン版と同じ。」とのことである（353頁）。
- 19) Wikipedia (https://de.wikipedia.org/wiki/H%C3%A4nschen_klein) (参照2016-05-06) によると Ludwig Erk, Franz Magnus Böhme: *Deutscher Liederhort*. Band 3, 1894, S.318. である。引用箇所は Wikipedia に従っている。

参考文献

- 上田信道：『名作童謡ふしぎ物語』創元社（大阪）、2005年
上田信道：『謎とき名作童謡の誕生』平凡社新書、2002年
上田信道：「岡崎発の『蝶々』～学校唱歌の源流をめぐる～」第3回（平成19年度）「岡崎学－岡崎を考える－」講座、2007年10月6日
(www.okazakicci.or.jp/konwakai/19okazakigaku/19-1.pdf)
上沼八郎：『伊沢修二』吉川弘文館（人物叢書）、昭和63年新装版第1刷（昭和37年第1版第1刷）
金田一春彦、安西愛子編：『日本の唱歌（上）明治篇』、講談社文庫、昭和58年第5刷
園部三郎、山住正己：『日本の子どもの歌－歴史と展望－』岩波新書（青版）468、1970年第5刷（1962年第1刷）
堀内敬三、井上武士編：『日本唱歌集』岩波文庫、1998年第59刷（1958年第1刷）
安田 寛：『唱歌と十字架 明治音楽事始め』音楽之友社、1993年
山住正己：『唱歌教育成立過程の研究』東京大学出版会、1979年復刊第1刷（1967年初版）
読売新聞文化部：『唱歌・童謡ものがたり』岩波現代文庫（文芸227）、2014年第5刷（2013年第1刷）
[単行本は1999年岩波書店刊]
Das große Hausbuch der Volkslieder. Über 400 Lieder aus Deutschland, Österreich und der Schweiz und Illustrationen von Ludwig Richter. Herausgegeben von Walter Hansen unter beratender Mitarbeit von Georg Schwenk und Dr. Wiegand Stief. München (Mosaik Verlag), 1978. S.132.
Das kleine Kinderliederbuch. Die schönsten Kinderlieder gesammelt von Anna Keel mit Bildern von Tomi Ungerer. Zürich (Diogenes), 2005.
Deutsche Lieder. Texte und Melodien. Ausgewählt und eingeleitet von Ernst Klusen. Frankfurt am Main (Insel), 1988 (= insel taschenbuch 1032). S.727.
Die schönsten Volks- und Wanderlieder. Herausgegeben von Günter Beck. Frankfurt am Main (Fischer), 2011.
Wiedemann, Franz: Samenkörner für Kinderherzen. Als Grundlage für den ersten Religionsunterricht, nach den zehn Geboten und den christlichen Festtagen geordnet. Nebst einem Anhang kleiner Lieder nach bekannten, leichten Melodien. Für Kinder von 6 bis 8 Jahren. Von Franz Wiedemann. Achte Auflage. Dresden, Verlag von Gustav Dietze. 1873. S.137.
Wiedemann, Franz : Samenkörner für Kinderherzen. Für Kinder von 6 bis 8 Jahren. Von Franz Wiedemann weil. Oberlehrer in Dresden. Dreizehnte Auflage. Dresden. Friedrich Jacobi's Verlag 1903. S.137.